

第45回



EVERRISE VIETNAM

EVERRISE VIETNAM社は、東京都港区六本木に本社を置く株式会社EVERRISEの子会社として、2012年に設立されました。

EVERRISE社は、お客様に喜ばれたい、仲間達に喜ばれたいというスローガンを掲げており、笑顔の耐えないう会社作りをしています。今回はそんなEVERRISEグループの倉田社長にお話を伺ってきました

●事業内容

ソフトウェア開発

オフショア開発

●EVERRISE VIETNAM CO.,LTD.

8F Vimedimex Hoa Binh Building,
246 Cong Quynh, Dist 1,
HCM City, Vietnam

●日本本社

東京都港区六本木4丁目11番13号
ランディック六本木ビル3F



一進出の経緯についてお聞かせください。

2012年7月に視察でベトナムを訪れ、国全体のエネルギーにとっても刺激を受けました。その他にも東南アジア諸国を視察していましたが、税制や政治体制、教育事情など様々な複合的要因から考えてもベトナムの優位性を感じましたし、何よりも視察に訪れた会社でベトナム人の方々が大変真面目に働いているように見受けられ、「ここだ!」と確信しその場でライセンスの申請をし、2012年11月にEVERRISE社の100%出資の子会社、EVERRISE VIETNAM社を設立いたしました。

各社とも事情は同じなのですが、日本で優秀なITエンジニアを確保する事は極

めて困難です。当社では仕方なく素養のある若者を採用し1年~2年掛けて育てるという手法を取っていました。しかしベトナムではIT教育がとても盛んで、ITエンジニアは人気の職業と言う事で、そういった人材採用面でのメリットをとっても期待しています。

一業務内容についてお聞かせください。

弊社EVERRISE社はソフトウェアの受託開発を行っておりますが、主にインターネット広告に関する開発やスマートフォンアプリの開発等を行っています。

インターネット関連の開発は現在日本で非常に盛んで、その生産力の強化の為

に2012年11月にライセンスを取得しEVERRISE VIETNAM社を設立してオフショア開発を開始しました。

インターネット関連の開発といってもいわゆるホームページ制作等ではなく、CMSを利用したWebサイトの構築や、ECサイトなどの構築、またホームページ上に広告を表示するシステムや、インターネット上でのユーザーの行動を分析する解析システムなど技術的な開発を必要とする案件を手掛けています。

また、インターネット関連に限らず、企業の経営課題を解決するための情報システム化も得意としており、コンサルティングから構築、保守運用までを一貫してサポートしています。ひところでは大手開発会社に依頼すると予算数千万、下手すると数億円、開発期間1~2年と言われるようなシステムでも、インターネット上のサービスを駆使する当社の技術であれば素早く安価に構築が可能です。

EVERRISE VIETNAM社では実際にそのようなEVERRISE東京本社が請負った日本のお客様のシステム構築案件を、日本側メンバーと共に開発を行っています。

日本側で企画や設計を進め、ベトナム





側は主にプログラム開発を担当しています。

開発ツール、開発ルール、プロジェクトテンプレートなど、日本側と共通のものを利用しており、無駄なコミュニケーションやプロジェクト進行上のリスクも削減にも取り組んでいます。

システム開発においては、お客様の要望もさまざま、開発するに当たり厳しい要望もありますが、期待を上回るものを開発するよう心がけ、お客様にも喜んで頂いております。

—スマートフォンアプリケーションは開発したのでしょうか？

スマートフォンの普及率とアプリ市場から考えると凄まじい成長を遂げており、スマートフォン用の開発というのも増えてきています。

特にアイテム課金で世界的に成功したゲームアプリ開発が昨今は旺盛ですが、当社はそれらには手を出さずあくまでシステム開発の一環としてスマートフォンデバイス対応等を行っています。

その他にもFacebookやtwitter等と連携するようなアプリケーションの開発等をおこなっております。

—人材の確保はどのようにされましたか？



設立当初は、人材紹介会社を通して紹介して頂きましたが、より良い人材を集める為に社員に対して紹介の報奨金を出す事にしました。

良い人物を紹介してもらい採用に至った場合は給与1ヵ月分という条件でしたが沢山の人物を紹介してくれました。

今ではホームページもオフィスも整っているのですが、インターネットの求人広告のみですが多くの応募がくる状態です。

それは、当社のベトナム人スタッフが書いている社内の様子を伝えるブログによるところが大きいと思います。

面接に来る人来る人、この会社は仲がいい親切的会社だから、と口を揃えます。

—ベトナムで事業を行うにあたって困ったことなどありますか？

やはり一番の問題は言葉の壁です。でもそれは当たり前の事なので、こちらの意思がうまく伝わらないとか、勘違いされるという事はある程度、覚悟の上です。

しかしながら一番困ったと思う事は、報告・連絡・相談という日本人であれば社会人一年目に口うるさく言われる仕事の基本が出来ていない事でした。報連相がしっかりできれば勘違い等は改善されていくはずなのですが、年上を敬うあまりに意見を言わないなど、古い日本企業でもあまりなさそうな風習があったりする様で、

その辺りが一番苦労しています。

—ベトナム人スタッフについてはどのように評価されますか？

現在弊社の従業員は40名ですが、皆真面目で頑張ってくれています。

グループに分け、仕事をしていますが、各グループはもちろんのことですが、皆とても仲良くしており、助け合いながら仕事をしていただいているので、特に不満はありません。

—今後の展開について教えてください。

現在は日本本社の仕事がほとんどですが、長期的に日本のマーケット衰退も考えられるので、日本だけでなく世界に対してソフトウェア開発を提供できる会社していきたいと考えています。

ベトナムにはそのポテンシャルが十分にあると感じています。

また、今後のベトナムの経済成長に合わせてベトナムをマーケットとして見る事も視野にいれ、細々とではありますが現地企業の開発にも着手しています。

ベトナムがマーケットとして隆盛する頃には生産拠点は次の国に移るかもしれませんが、その頃には今の日本人スタッフの様にベトナム人スタッフが世界に出てビジネスを引っ張っていつてくれるようになる事を願っています。

—ありがとうございました。

